

事業内容

患者家族滞在施設
マザーハウス運営

患者家族滞在施設
マザーハウス

企業 data

代表者	茅房 栄美
所在地	安曇野市豊科4932番地13
従業員数	1名
連絡先	☎080-4122-0817

Introduction

安曇野ICから車で5分、豊科駅より徒歩3分。病気と共に生きる子どもと家族の支援活動団体。

- ①患者家族滞在施設マザーハウス運営
 - ②病児ママの就労支援事業
 - ③大規模災害時における母子の助け合い全国のネットワークづくり
- の三本柱事業を目指している。

支援をうけて。

代表理事 茅房 栄美 氏

今回は突然のご縁により、切一週間前に申請相談をしました。開所までの様子を見ながら丁寧に対応していただき感謝申し上げます。地域や病院との連携を取り、家族の皆さんが笑顔になれる場所づくりを目指して参ります。

企業の現状



子供の治療で遠方から病院に通う家族、産前産後の母親、長期入院付添者の休憩や宿泊、家族同士の交流の場が近隣に少なく、代表者自身も経験した経緯から近隣に施設を開所することを目指していた。治療期間中に子供は家

族との関係を分離することは大変困難で、授乳期の母親は良質な母乳の為に栄養を摂る事が望ましいのだが現実には不自由な食生活となり栄養が偏る。十分な睡眠や子供を支える為にも親が息抜きできる時間と場所が必要である。医療高度化により助かる命が増えた反面、長期的に子供に付添わなければならない家族の実態を踏まえて就労や経済的課題を解決する施設を事業化する事を計画、クラウドファンディングを利用して資金調達を行ったが、更なる資金不足解決の一助としてソーシャルビジネス創業支援金活用を考慮した。

支援内容 (連携支援機関を含む)

申請相談にいられてから申し込み締め切りまで1週間の短時間であり、本人の生活拠点が下伊那郡豊丘村で遠距離という事が書類整備への課題となった。

しかしながらクラウドファンディングの活用経験、本人が豊丘村から安曇野まで通院されていたという実体験より地域課題解決意欲が高く、携帯電話・メール等の活用により数回の修正で求められていたソーシャル性・事業性の整理が出来て申請書類が整い、事業採択を得ることが出来た。

本人の経験が大きな原動力となって

いた事から周囲の理解・賛同・協力を得ることができ、創業から活動に繋がっていった。



支援の結果・成果



正式開所は1月であるが、施設改修中の昨年夏よりマザーハウスには沢山の家族が訪れている。

季節のイベントや病児と患者家族の地域交流プログラムの開催、母親の就労支援を目的としたフラワーソープ作りの体験教室開催に加えて、在宅ワークの技術者養成プロジェクトも立ち上げている。

病児ママの就労支援に繋げる全国モデルケースも目指している。

台風19号で子供服支援を機に長野北部被災地支援活動も開始し、支援実績により大規模災害の母子助け合いネットワークを構築中である。